

## 東大EMP第19期プログラム 最終報告発表 概要

(2018年9月8日)

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
<b>[チーム1]</b> 清田 次郎 今野 水己 篠塚 孝哉 西橋 由紀子 藤原 道雄	健康的で活力のある 超高齢化社会経営	笑顔あふれる高齢化社会の 実現に向けて	<p>高齢化・長寿化の進む我が国では、社会保障費増大、支え手不足が懸念されている。60歳以降も働くことが当然となる時代に向け、副業容認や定年制廃止など雇用慣習の変化が始まっている。一方、現40～50歳の現役世代は、こうした雇用形態変化に自らが対応できないまま60歳を迎えてしまい、安定した老後を過ごせないのではないかという不安を抱えている。</p> <p>我々は、現40～50代が安心して60歳を迎えられる社会を実現するために必要な施策について考え、笑顔あふれる高齢化社会の姿を提示する。</p>
<b>[チーム2]</b> 北村 洋二 樽林 澄明 竹中 勇一郎 別所 正博 村上 友一	資源・エネルギー活用 の規律による環境保 全	情報化社会が産み出す「新 たな環境問題」	<p>エネルギーの利用により、人の生活はより豊かに、より快適に、より便利になってきた。過去を振り返ると、環境問題はエネルギーとの付き合い方により変遷してきたが、情報化社会の進展はどのような問題を産み出すだろうか。環境問題の変遷を踏まえ、「新たな環境問題」を提言する。</p>
<b>[チーム4]</b> 榎本 弘子 河井 治彦 迫田 章平 三留 秀成 宮嶋 恭宏 森口 貴弘	多様な宗教、文化、政 治を前提とした共通行 動規範確立	規範は世界を救えるか	<p>現在、世の中には、国家、組織、個人など様々なレベルで規範が存在しています。しかしながら、昨今のテロ事件、また親族間の争いなどに見られるように、こうした規範が十分機能していない現実があります。私たちはこうした現実を踏まえ、新たな規範をつくることによって行動を縛るのではなく、規範を受け入れられない人との共生をいかにして実現させるかについて検討を行ってきました。</p> <p>他者との共生の心を原点としつつ、その心を世界に広げていくための社会システムについて提言を行います。</p>

<p>[チーム5] 上野 さやか 杉本 明洋 橘 昭頼 長岡 香江 堀切 和久</p>	<p>先端科学・技術の効 用前提での新世界観 の形成</p>	<p>人間と人工知能の理想共生 — “AIという異性”と旅する—</p>	<p>科学・技術の近過去を振り返ってみると、20世紀以降、量子力学に代表される様な人の感覚に合わない世界が科学から生まれた。21世紀の現在、これまでの科学をベースに数多くの技術が生まれてきている。加えて、大量に生み出した情報に取り囲まれることで、技術の効率的な「利用」や「選択」が困難な時代に急速になってきている。このような時代の流れの中、人は「知能」と称して「人工知能(AI)」を創造した。AI技術は今現在、第三次ブームを迎え、今後の更なる進化が期待される。</p> <p>先端科学・技術は、我々の生活に多くの恩恵をもたらし、その中心としてAI技術は欠かせないものだと考えられるが、その進化の方向性については、所謂「シンギュラリティ」の議論に代表されるように、様々な議論が巻き起こっている。いま、まさに「AI」の存在によって「人間」という存在が問われているのである。人間社会が今後も持続的に、科学的にも文化的にも発展していくためには、いま、この時代に生きている我々が、AIひいては人間の知性について考えることで、世界観をゆさぶる必要がある。我々は、その先に見える人間とAIの新しい関係性を描いてみたい。</p>
---	--	--	--